



中野 ゆかり

子宮頸がん

ワクチンの接種を慎重に
町長／国の勧告に従っている

厚生労働省は今年6月、子宮頸がんワクチン接種の積極的な呼びかけを一時中止した。理由は副作用を訴える人が多かったからだ。本町においてワクチン接種後、副作用を訴えた人はいるか。

町長 25年度は7人の方が接種されているが、副作用はない。

副作用の症状として呼吸困難、計算障害、歩行障害などのほか、

海外ではワクチン接種後、死亡する報告もある。本町でもワクチン接種後、重篤な副作用の患者が出たら、どのような補償をするのか。

福祉課長 予防接種法に基づき行っているため、副作用が出たら予防接種救済法で対応する。

子宮頸がんになる原因のほぼ100%は、性交渉によるヒトパピローマウイルスの感染

によるものとされており、女性の約80%が一生に一度は感染をしていると推定されている。しかし、感染しても約90%は免疫により体内から自然に消失するらしい。そんな子宮頸がんを予防するためにリスクを伴うワクチンを接種するより、安全な検査に費用を助成してはどうか。

町長 厚生労働省が決めるため、検査に助成する訳にはいかない。



子宮頸がんのパンフレット

保育園
一園化の実施時期は
教育長／28年度の建築を目ざす



あたご保育園

ゼロ歳から8歳までの脳の成長は驚異的で重要な年齢である。今までの園の保育にプラスアルファの特徴を持った保育内容の充実を図ることで、子どもの能力を開花させ、能力の高い智頭の子どもが育つと思うが、構想を問う。

教育長 方向として、日本全国が認定こども園的なものになっていくと思うので、従来の幼稚園、保育園の機能をあわせ持ったものになるかと思う。智頭の特徴的なものは今々は考えてはないが、子ども・子育て会議の中で検討していく。